

カトリック高松教区（大船渡プロジェクト） 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター（6）

発行人 高松教区サポートセンター 2013年3月2日発行
編集 谷口広海
寄付 郵便振り込み：カトリック高松司教区
01650-7-13208
(お振込の際はTSCへの寄付の意向を必ずご記入ください)
tel:070-5512-6810 Email:tk-koho@mx1.netwave.or.jp

東日本大震災大阪教会管区大船渡プロジェクト管担当会議 (2013/2/12)



まず初めに、現地からの状況報告を深堀事務局長が行い、大船渡ベース長のハルノコー神父が補足説明を行った。

■資金不足と人材不足からNGOの撤退や大船渡市や陸前高田市社協がボランティアセンターを閉鎖している現実がある。その上「現地の自立」という理念が教条主義的に理解されて、外部からのボランティアを拒否する自治体もある、との報告である。

<管区としての状況認識として>

1. 大船渡ベースがカバーする陸前高田市、大船渡市の被害率は高く、ニーズはまだある。
2. 今後も高齢者、障がい者が取り残されていく可能性が高い。
3. ニーズがあるにも関わらず市社協ボランティアセンターが撤収せざるを得ない状況をもっと社会にアピールして問題を提起すべきではないか。
4. 外部からの支援の減少は容易に想像できる。理想は現地における互助・自立だが、それは簡単ではなく難しい。
5. 大船渡ベースの活動は「面」ではなく「点」でおこなっている。我々の組織は大きくない。目の前のベース活動の問題を共有する事に主眼をおきたい。

■協議内容

大船渡ベースが抱える問題点をベースが提示し、以下の通り、解決策を協議した。

- ①次期ベース長：本来は地元の人が望ましい。次期ベース長にはヴィンセンシオアパウロの愛徳姉妹会 Sr. 吉沢が引き受けてくれることとなった。3月21日頃、任命書を渡す。
- ②現地採用の職員を増やす

予算も計上しており、仮設や自宅避難者が問担当者として採用を承認する。

■ベースの方向性

- ・大船渡ベースは将来的には地元のコミュニティセンターを目指してはどうか。
- ・予算については、カリタスジャパンに申請した予算案を管区としても承認する。

■ベースの活動内容について

社協の撤退へむけたニーズの掴み方として

- ①ベース活動の柱として；特に男性のために、AAの手法を使った本音を語る事ができる「分かち合いの場」を持つてはどうか；神戸では男性対象に「ゆうゆう会」ができた。これは「何でも言う」、「YouとYou」等の意味が込められた集まりで、当初AAのミーティングの持ち方の講習を受けたが、専門家でもなくても長年活動が継続できた実績がある。
- ②生活困窮者への支援
 - ・ベースが個々の被災者のニーズを掴んだ時点で、ベースで策定の判断基準に基づき、生活支援物資を配ることを承認する。2013年度は月20万円の予算を承認する。
- ③ベース独自のプロジェクトも可能。例えば、仮設の住民を誘ってバス旅行を計画する等

さあ、これからが支援活動の正念場、真骨頂！

また3月11日がやってきます。大地震と津波で肉親を失い、財産を奪われ、悲しみの中で未だに途方に暮れておられる方がたくさんおられます。甚大な被害に見舞われた多くの街々も復興と云うには程遠い状況にあります。言葉には言い尽くせない哀しみと困難の中で、現地の人々は今の細々とした暮らしを維持することが精一杯の状態です。

あれから2年が経ち、復興支援活動に携わってきた多くのNP0団体やボランティア団体が引き上げていく中で、日本カトリック司教協議会傘下にある支援組織である各教会管区サポートセンタは仙台教区と共に、細くても息長い支援を続けていこうとしています。

これまでTSCは何をしてきたのかと歯がゆい思いをされている心ある多くの方々には情報の発信を始め、力不足の面だけが表れてしまいましたことを、TSCとして心からお詫びいたします。とはいえ、この2年間を総括してみますと、高松教区としては皆様の善意の力によって、下記に載せております支援収支報告にもありますように、大阪教会管区内信徒一人一人の支援としては決して小さなものではないことをご報告できると思います。只、地理的、経済的要因を以て、大船渡ベースへのボランティア支援を見てみますと22人ほどの報告となります。

これから先のボランティア派遣はベースにとって特に重要な支援となってきます。そういう意味ではこれからの支援活動が現地のニーズを満たしていくための重要なカギとなってきます。信徒の皆様一人ひとりの、小さくても心がこもった支援を頂くことによって、これからの支援活動も引き続きつながらせて頂くことが出来ます。

近く、各地区担当者の皆様にTSC会議開催をお知らせすることになりますが、その際はご参加の程を宜しくお願い致します
TSC 谷口広海

TSC は現在も お米券キャンペーン推進中です

TSCとしての公式な支援活動は全信徒が身の丈に応じて、だれでも、いつでも、何処にいてもすぐに参加できる「お米券」という形での支援活動だけです。これはこれからも弛まず続く支援の在り方として、信徒の方々に余り負担をかけず、額としては少なくとも皆が結集すれば大きな力になると信じているからです。ですから、各地区、ブロック、小教区、グループ、あるいは個人での活動は大いに推奨されることです。これらの活動はTSCへの報告義務はありませんが、皆様の報告によって、教区内でどのような活動がなされているかを全信徒が知るチャンスになります。出来ればTSCへご報告くだされば幸いです。

高松教区サポートセンター 大阪教会管区 大船渡プロジェクト

(2011年12月～)

お米券キャンペーン！

被災された人たちに
賞味期限を知らない隣人愛
愛の奇跡に貢献してみませんか

息の長い支援の在り方として最適のがち！

TSC

大阪教会管区（名古屋・大阪・京都・広島・高松）は
大船渡ベース（地ノ森いこいの家）で活動しています

ボランティア募集中！

TEL 070-5512-6810 E-mail:tk-koho@mx1.netwave.or.jp

支援金＆お米券収支報告（2011年3月～2013年1月31日現在）

（注）・支援金額の内に お米券の金額も含まれています。
（当初の1000万円募金は含まれていません）

収入・支援金 10,493,115円
・内お米券（207枚と現金） 2,052,042円

支出 大阪管区大船渡プロジェクトへ
・支援金 7,675,577円
・内お米券（207枚と現金） 1,928,141円
・必要経費 333,150円

TSC預かり（繰り越し）分

・支援金 2,484,388円
・お米券 123,901円

必要経費（内訳）
交通費（会議・ボランティア） 268,890円
宿泊費 5,980円
手数料（物資送料） 57,440円
通信費（送金手数料） 840円

毎月或いは定期的に支援してくださる小教区の皆さま、そして修道会、グループ、個人、全ての支援者の皆さまに心から感謝申し上げます。

（※支援金で、お米券の為かどうか判断が付きかねない場合は、金額の2分の1をお米券として処理しています。）

バレンタインイベント開催 参加者 50名 2013/2/16

在宅・仮設入居被災者全ての方に楽しんでいただけたら幸いです！



ホテルのシェフとパティシエの方に来て頂いて開催。ビュッフェ形式で、好きなものを取って食べてもらい、シェフたちに聞きたいことを聞いてもらう感じになりました。

■ベース支援について

- 1) ボランティア確保が課題。ボランティアへの交通費補助をお願いしたい。条件はそれぞれ違うが各教区共に制度はある。各教区で再度周知する。
- 2) ベースへの物資を送る件：古着は不要。殆ど無駄になる。お米券は有効使用出来ている。子供の服や靴が欲しい時もある。ベースが物資を欲しい時には各教区へお願いする。それ以外には物資は送らない。
- 3) ベースは大船渡市等の現地零細小規模商店の物産チラシを管区内教区に紹介したい。
- 4) ベース活動を広く管区内に周知するため「大船渡だより」を新たに作成する。また各教区で大船渡プロジェクトを紹介するイベントを計画する。ベースを紹介するための“パンフレット”を作成する。

■その他

第3回全国担当者会議 6月25～27日、郡山市で開催予定。